

第14回群馬地域リハビリテーション研究会のお知らせ

第14回群馬地域リハビリテーション研究会を下記の予定で開催します。詳細は群馬県地域リハビリテーション支援センターホームページか、関連団体事務局宛のチラシでご確認下さい。事前申し込み受付は平成27年12月16日(水)から開始します。

今回は会場が、昨年と変更になりましたので、お間違えの無いようご来場ください。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

【日時】平成28年1月23日(土) 13:30 ~ 17:30(受付 13:00)

【場所】群馬大学医学部臨床大講堂

※病院駐車場をご利用の場合は駐車料金 200円がかかります。

【報告】13:40 ~ 14:00 群馬県の地域リハ関連情報



【講演Ⅰ】14:00 ~ 15:30

「地域生活を支援する生活行為向上マネジメント」

講師:首都大学東京 健康福祉学部 作業療法学科 小林隆司 先生

平成27年度より通所リハ実施機関では生活行為向上リハビリテーション実施加算の算定が認められました。その人にとって大切な「やりたい」「したい」と思っている生活行為の向上を目指した、生活行為向上マネジメントについて概説し、その実践例の紹介をしていただきます。

【講演Ⅱ】15:50 ~ 17:20

「地域におけるリハビリテーション栄養」

講師:東京都保健医療公社 大久保病院 御子神由紀子 先生

リハビリテーション栄養とは栄養状態も含めて国際生活機能分類(ICF)で評価を行ったうえで障害者や高齢者の機能、活動、参加を最大限発揮できるような栄養管理を行うことです。リハビリテーション栄養において重要な評価ポイントの一つにサルコペニアがあげられます。今回はサルコペニアを中心にご講演していただきます。

前橋市介護予防サポーターの取り組み～ピンシヤン体操クラブ～

前橋市介護高齢課介護予防係 荒木 祐美

前橋市では、介護予防サポーターを平成 17 年度から育成し、10 年が経過した。前橋市の介護予防サポーターの養成は、基本的な介護予防の知識を学ぶ初級研修、知識を生かすための実践を学ぶ中級研修、市の介護予防教室や地域のサロン・自主グループの見学を通してサポーターの役割を学ぶ上級研修から成る。現在、上級研修を修了した介護予防サポーターの登録者は 798 名、平成 27 年度の活動者は 603 名である。前橋市の介護予防サポーターの特徴は、活動内容を各々のサポーター自身が考え、できる形で実践し、行政がサポートする形をとっていることである。活動内容は、居住地域のサロンや自主グループ運営協力や地域行事(運動会や敬老会など)での介護予防の普及啓発、前橋市が主催する「介護予防まつり」への運営協力、介護予防関連研修会(介護予防サポーター養成研修など)の運営補助などである。現在、サポーター数の増加に伴い、サポーターの地区活動を 15 圏域に分け、圏域ごとにサポーター同士の情報交換やスキルアップを目的に 4 回/年程度の定例会を開催し、また地域行事へ積極的に参加し地域住民への介護予防の普及啓発をおこなっている。

今年度から、介護予防サポーターが中心となり月 2 回以上体操を継続的におこなう「ピンシヤン体操クラブ」の立ち上げをおこなっている。この体操クラブの立ち上げは、前橋市のご当地体操であるピンシヤン！元気体操を高齢者が身近な地域で頻度を増やして継続的におこなうことができる場所作りである。また、より多くのサポーターが地域での介護予防の普及に活躍できることも目的としている。平成 26 年度介護予防サポーター活動者へのアンケート調査で、「サポーターの役割として地域で必要だと思うこと、やってみたいことは何ですか」という質問に対して、運動の普及や認知症予防の取り組み、高齢者が集まれる居場所づくりと答える方が多かった。また、関わる頻度については、月 2 回程度と回答した方が多かった。こういったサポーターの声から、運動に特化した地域のグループの立ち上げをすすめることとなった。現在(平成 27 年 10 月末)までに、34 ヶ所の体操クラブが立ち上がり、そのうち週 1 回開催しているグループは 16 ヶ所である。その体操クラブの1つ「あらまきまちピンシヤン元気体操」では、前橋市荒牧町のサポーター12 名が担い手となり、毎回当番で役割を決めて体操をおこなっている。立ち上げた当初 15 名ほどだった参加者は、口コミで増え 30 名ほどになり毎回高齢者の運動・集いの場となっている。今まで地域の行事に参加できなかったサポーターも担い手としてやりがいを感じて参加している。参加者とサポーターとの交流を通して、市民の介護予防だけでなくサポーター自身の生きがい作り、仲間作りにも大きな役割を担う可能性を感じている。

介護予防サポーターは、自分の暮らす地域に適した介護予防の取り組みを自分のこととして考えながら実践できる良さがある。今後も介護予防サポーター自身がやりがいを持って、楽しんで活動ができるよう支援していきたい。また、地域資源の1つとして介護予防サポーターが担う介護予防の場を地域に増やしていきたいと考えている。



あらまきまちピンシヤン元気体操

事務局長交代のお知らせ

浅川康吉氏が、首都大学に移動したため、平成 27 年 10 月 1 日より、高崎健康福祉大学 山上徹也氏が就任しました。なお、山上氏は、平成 28 年 1 月 1 日より群馬大学へ異動する予定です。

群馬県理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡協議会

介護予防部の活動

群馬県理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡協議会
介護予防部 部長 山口智晴、副会長 山路雄彦

理学療法士と作業療法士、言語聴覚士のリハビリテーション 3 職種が連携して活動し、群馬県内のリハビリテーションに関する諸問題に対応するため、群馬県理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡協議会が設立され、平成 23 年 3 月に活動開始となりました。介護予防部は、地域における介護予防関連事業などにリハ 3 職種が活用される基盤の整備に向け、平成 27 年 4 月に新たな部局として位置づけられました。今年度(平成 27 年度)の介護予防部は、理学療法士 5 名・作業療法士 3 名・言語聴覚士 2 名の体制で、県内のリハ 3 職種に対する人材育成研修やその登録システムの検討、市町村からの要望に応じた講師派遣事業などを主な事業内容としております。今回は、平成 27 年度から高崎市で実施している講師派遣事業について紹介させていただきます。

今年度より群馬県高崎市からの事業委託を受けて、高齢者向けふれあい・いきいきサロンへの講師派遣(生活機能向上指導講師派遣事業)と長寿センターなどで行われている元気づくりステーションへの講師派遣を開始しております。これは介護予防の普及啓発や要介護状態への移行防止を目的に、リハ 3 職種を同市内のサロンなどに派遣する事業で、約 90 分で表のようなメニューを実施しております。今年度は、高崎市内のサロン 254 か所に対して 107 名の講師が派遣され、11 か所の元気づくりステーションに対しては 3 名の講師が派遣される予定です。介護予防部では、サロンに派遣される講師向けの研修会を実施するとともに、サロン参加者向け配付資料や講師用マニュアルなどを作成しました。サロン講師派遣を受託するのは初めての試みで、260 か所のサロンへ講師を派遣するだけのセラピストを集められるかが懸念事項でしたが、約 130 名の応募があり、多くの方が地域リハの活動に興味を持っていることを改めて感じました。今後はサロン運営者や講師へのアンケート結果などを踏まえ、次年度に向けた内容の検討と人材育成研修の企画などを実施する予定です。

また、平成 27 年度は群馬県地域医療介護総合確保基金事業費補助金による事業も実施しており、平成 28 年 2 月 20 日(土)には介護予防推進に資する指導者育成研修も行う予定です。新しい総合事業や介護予防事業において、介護予防部が担うべき役割はさらに大きくなると考えております。今後は 3 職種内だけでなく、地域の様々な関係団体と連携しながら事業を進めていければと考えており、関係団体の皆さまにはお力添えを頂ければ幸いです。宜しく願いいたします。

県支援センター事務局便り (H27.4～H27.11)

- 4. 6 ニュースレター24号発送
- 7. 3 支援センター受託団体である群馬リハネットの第1回理事会にて、平成27年度事業計画報告
- 7. 6 県介護高齢課より事業予算を受入
- 10. 1 新事務局長 山上徹也氏就任
- 11.11 第14回群馬地域リハ研究会部会
- 11.13 ニュースレター25号発行

メニュー	内容
講話①運動	ロコモティブシンドロームとは？
実技①筋トレ	筋トレ実技と実践ポイント指導
講話②認知症	認知症の正しい理解
実技②レク	身体を使った頭の体操
講話③口腔・嚥下	口腔・嚥下の正しい理解
実技③健口体操	口腔機能向上の運動
講話④栄養	栄養摂取のポイント

表 サロンでの講話・実技の例(90分)





群馬リハビリテーションネットワーク

ニュースレター 17号

2015. 11. 13

平成 27年度第 1 回群馬リハネット理事会

平成27年7月3日(金) 19時から、群馬大学大学院保健学研究科西棟 4階 大会議室において、開催された。県からは、健康福祉部医療介護局介護高齢課 吉田課長、尾池認知症対策主監、宮下企画推進係長、黒沢主幹が出席された。議事に先立ち、新任理事の紹介及び挨拶(群馬県歯科医師会 黒田真右理事、群馬県看護協会 加藤潤子理事、群馬県訪問看護ステーション連絡協議会 永田和洋理事、群馬県身体障害者福祉団体連合会 石井昌一理事(欠席)、群馬県ホームヘルパー協議会 小林幸江理事(代理人))があり、群馬県接骨師会→群馬県柔道整復師会への名称変更の紹介があった。

はじめに、(1)平成26年度県支援センター事業報告・精算書について、山崎県支援センター長より、報告があった。次に、(2)平成26年度事業報告・決算報告について、浅川事務局長より、報告があり、配付資料の「高齢者の暮らしを拓げる 10 の筋力トレーニング DVD・CD パンフレット」は、体操の内容の変更はなく、音楽 CD の紹介が新しく追加されているとの説明があった。「音楽 CD」は、体操の音楽のみが収録されていると説明があった。さらに、(3)平成26年度監査報告について、会計監査担当田中理事より、事業執行及び決算ともに適正であったことが報告された。(1)(2)(3)について、質疑なし、承認された。

次に、(4)平成27年度県支援センター事業計画書・見積書について、山崎県支援センター長より、説明があった。大きな変更として、地域リハ関係者研修会会場について、例年使用している群馬会館が工事で使用不可能なため、他の会場を探していること、一般向けの研修会「華麗に加齢」は、群馬大学からの予算がない可能性があるため、例年どおりの開催が現時点では決定していないこと、それに伴い、今年度の予算が、見積書と若干ずれる可能性があるとの説明があった。

次に、(5)平成27年度事業計画・予算案について、浅川事務局長より、説明があった。

他に、飯島理事より、「地域リハビリテーション支援活動推進のための基礎資料作成について」の途中経過報告があった。

山口副理事より、研修会に適切な県の施設で利用可能な会場があるかどうかの質問があり、尾池主監より、群馬会館と同様の条件での会場は、申込み方法、料金、駐車場等関係で、難しいとの回答があり、黒沢主幹より、1月23日の研修会については、群馬県公社総合ビルのホール仮予約を、群馬リハネット事務局にお伝えしているが、他会場が確保できるようであれば、キャンセルするとの補足説明があった。

(4)(5)について、承認された。以上を持って議事を終了した。

編集デスク

山口晴保／山上徹也／角田祐子

発行

群馬リハネット／群馬県地域リハビリテーション支援センター

連絡先

群馬リハネット事務局／

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局

群馬大学大学院保健学研究科内

Tel/Fax : 027-220-8966

E-mail: tsunoday@gunma-u.ac.jp

群馬リハネット事務局便り

(H27.4~H27.11)

平成 27年 11 月現在会員等の状況

* 加入団体 33 団体

* 賛助会員 団体会員 2 団体

(榊孫の手・ぐんま(旧ハッピーラブハッピー)と、榛名荘病院より賛助会費をいただいております。

* 個人会員 1名

5.31 ぐんま認知症アカデミー

第 10 回春の研修会(後援)

7.3 平成 27 年度第 1 回理事会

10.1 新事務局長 山上徹也氏就任

10.27 平成 27 年度年会費納入依頼通知発送

11.13 ニュースレター 17 号発行